

2025 年 3 月期 決算説明資料

2025 年 5 月 30 日

アイホン株式会社

本日の内容

01 2025年3月期
決算ハイライト

02 2026年3月期
業績の見通し

03 AIPHONE Vision 2025
第8次中期経営計画の進捗状況

本日の内容

01 2025年3月期 決算ハイライト

02 2026年3月期 業績の見通し

03 AIPHONE Vision 2025 第8次中期経営計画の進捗状況

為替変動

- 年度を通じて円安基調で推移し、海外市場の円貨売上が増加
- 円安の影響により、海外の仕入コストが大幅に増加

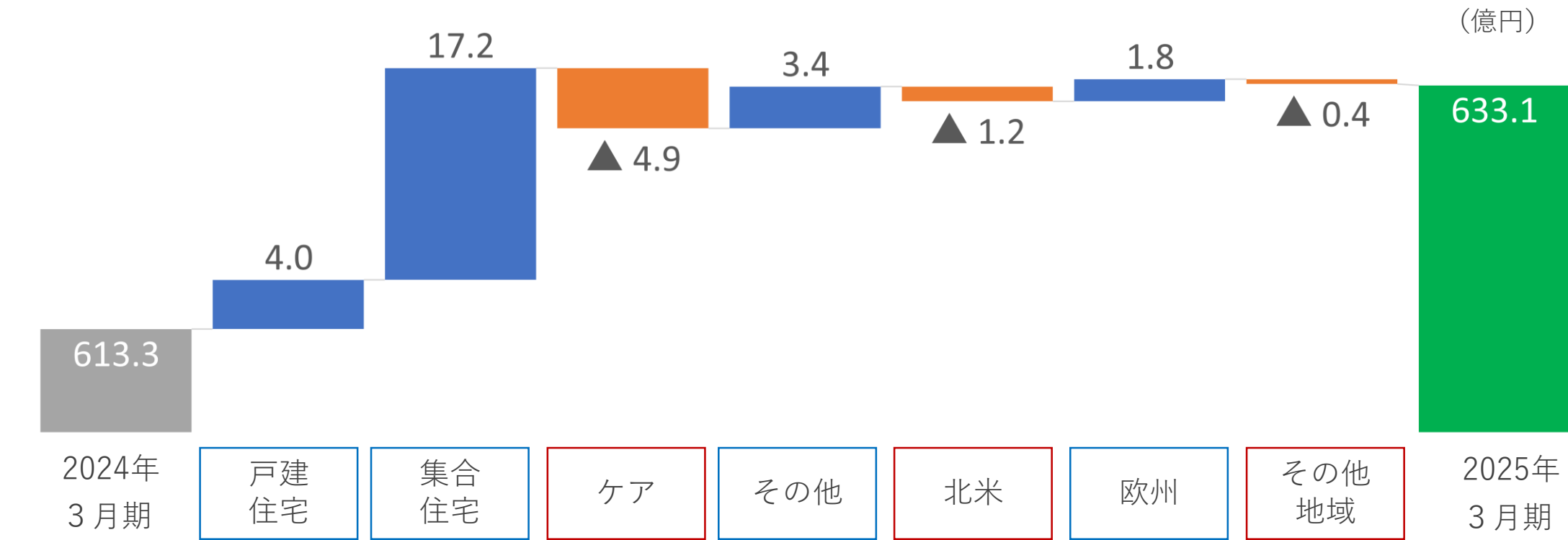
市場動向

- 国内集合住宅市場のリニューアル需要は高水準を維持
- 分譲マンションや病院・ケア施設において建設資材や工賃の高騰により計画の先送りや縮小も散見
- 北米市場は前期のバックオーダー解消に伴う売上増加に対する反動減に加え、大統領選の前後における様子見や混乱から投資が停滞
- 欧州市場は経済停滞は底を打ち緩やかな回復基調
- アジア・オセアニア圏は、中国の不動産市況の不安定化を機に集合住宅市場が継続的に低迷

売上高 海外市場では前期のバックオーダー解消に伴う一時的な売上増加の反動減が見られたものの、国内集合住宅市場の賃貸マンション向けリニューアルを中心に売上が大幅に増加し、過去最高。

利益 増収による増加はあるものの、開発費等の経費の増加や為替の影響により、各利益ともに前期比大幅減益。

(億円)		‘24/ 3 期 実績	‘25/ 3 期 計画	‘25/ 3 期 実績	前期比 増減率	計画比 増減率
売上高		613.3	623.0	<div>過去 最高</div> 633.1	+3.2%	+1.6%
営業利益 (売上高営業利益率)		52.6 (8.6%)	45.0 (7.2%)	38.1 (6.0%)	▲27.6%	▲15.2%
経常利益		61.3	50.0	41.6	▲32.1%	▲16.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益		46.4	36.0	36.1	▲22.1%	+0.5%
為替レート (円)	USD	144.62	142.00	152.57	USD：アメリカ合衆国ドル EUR：ユーロ THB：タイバーツ	
	EUR	156.79	154.00	163.74		
	THB	4.11	4.00	4.38		



国内市場

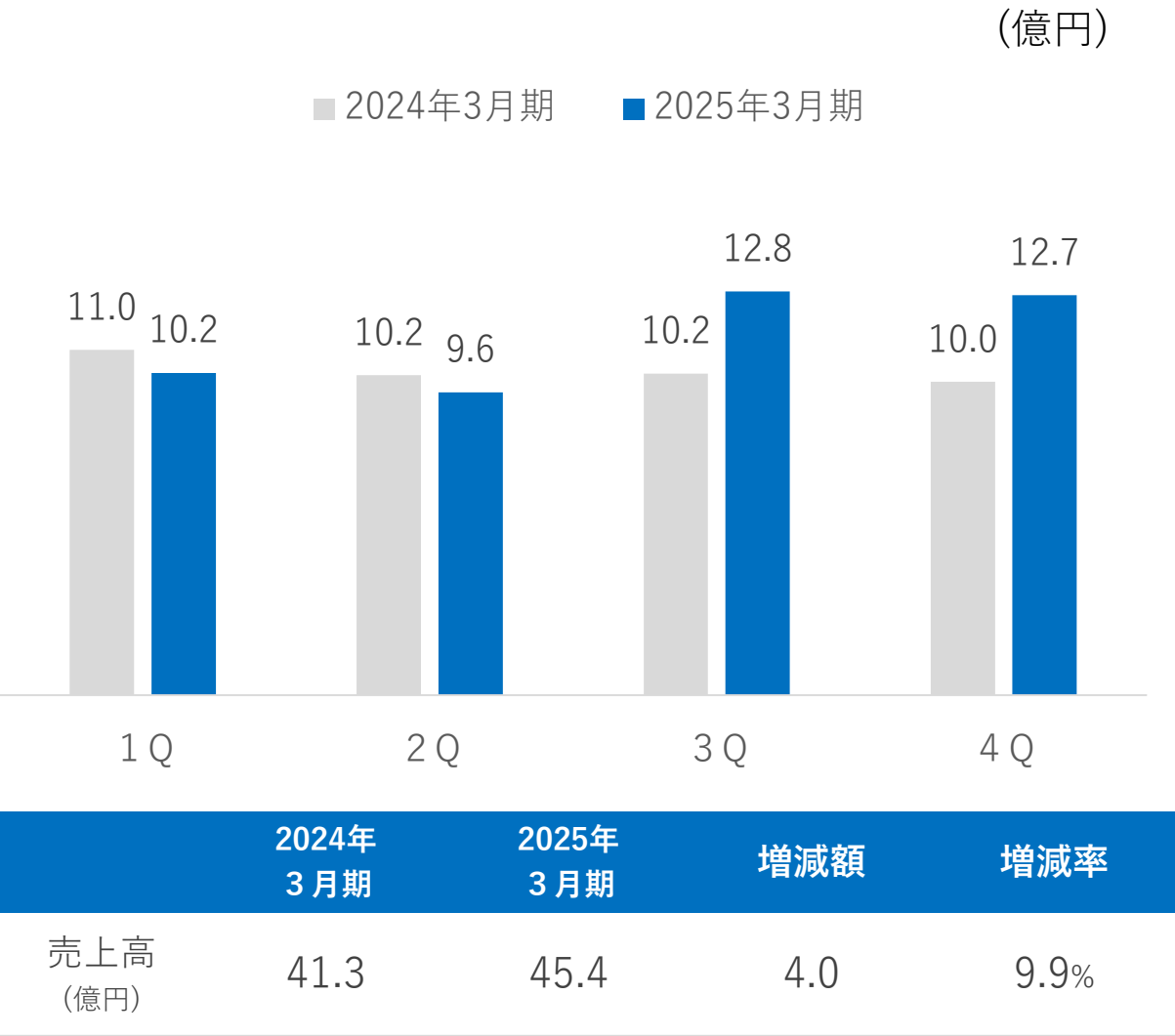
434.0億円 ▶ **453.5億円**
前期比 4.5%増

ケア市場で前期の商品供給の安定化による一時的な売上増加に対する反動により減少するも、集合住宅市場の賃貸マンション向けリニューアル売上が大幅に増加し、全体として増加。

海外市場

179.2億円 ▶ **179.5億円**
前期比 0.1%増

主力の北米市場において、前期のバックオーダー解消に伴う一時的な売上増加に対する反動減があったが、海外売上全体では為替の影響もあり円貨ではわずかに増収。



前期比

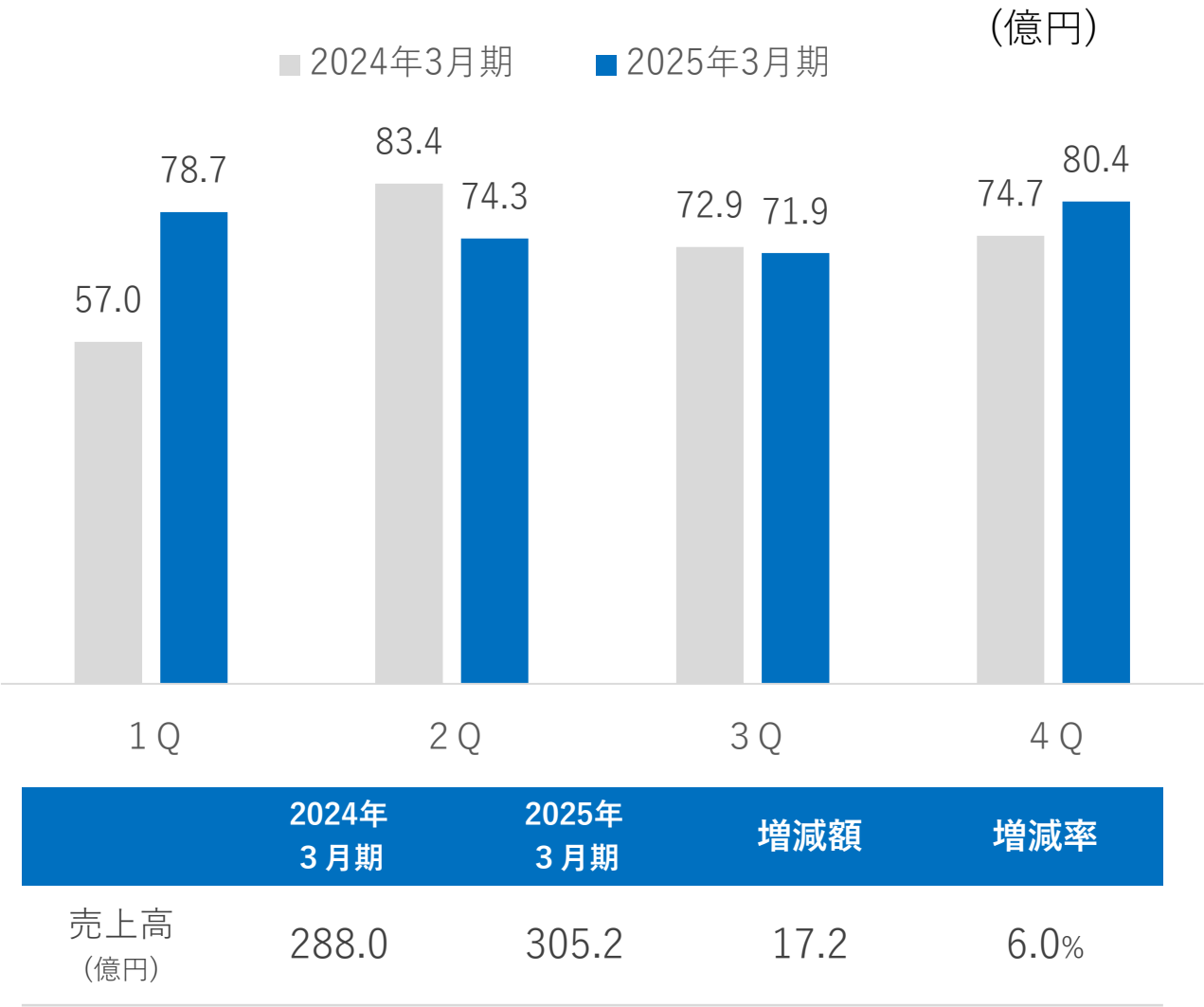
新築 7.7%増

◎他社採用先への積極的な受注活動の奏功。

リニューアル 16.6%増

◎防犯意識の高まりを背景としたリニューアル売上の増加。

◎他社採用先への積極的な受注活動の奏功。



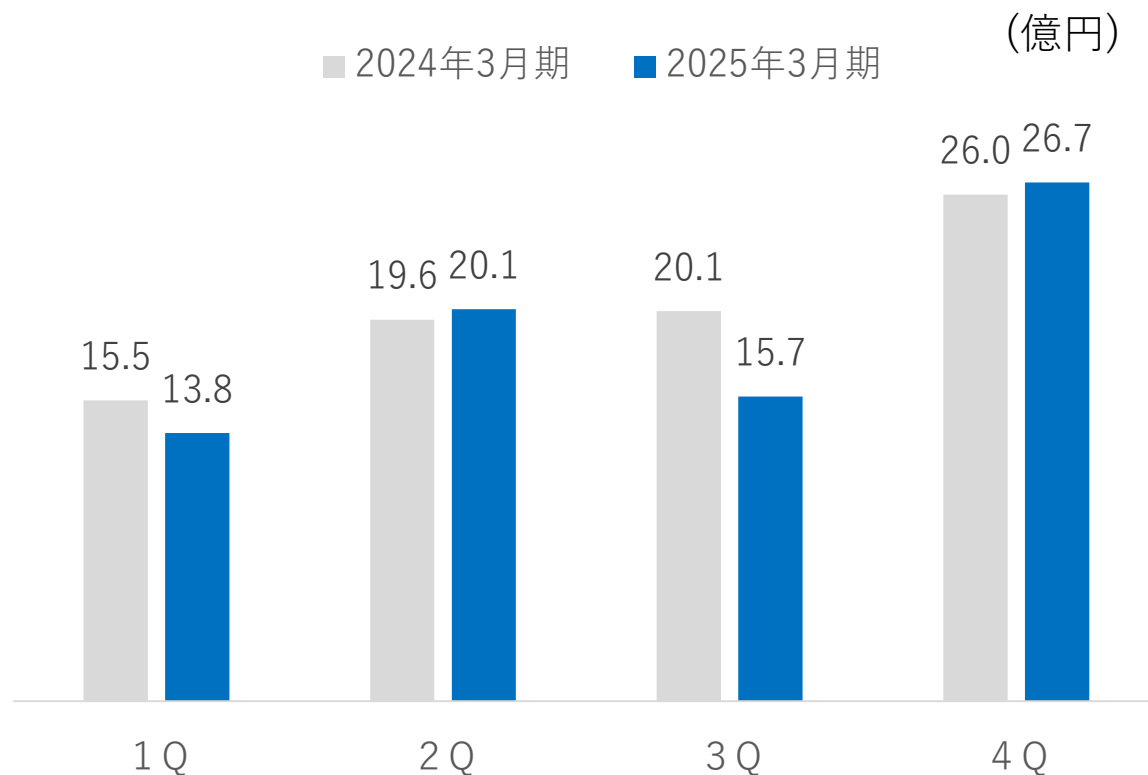
前期比

新築 2.1%増

- ◎ 賃貸マンション向け商品
『PATMOα』の販売が好調に推移

リニューアル 8.0%増

- ◎ 賃貸マンション向け商品
『PATMOα』の販売が好調に推移
- ◎ リニューアルにおけるセキュリティニーズは高水準を維持。



	2024年 3月期	2025年 3月期	増減額	増減率
売上高 (億円)	81.1	76.2	▲4.9	▲6.0%

前期比

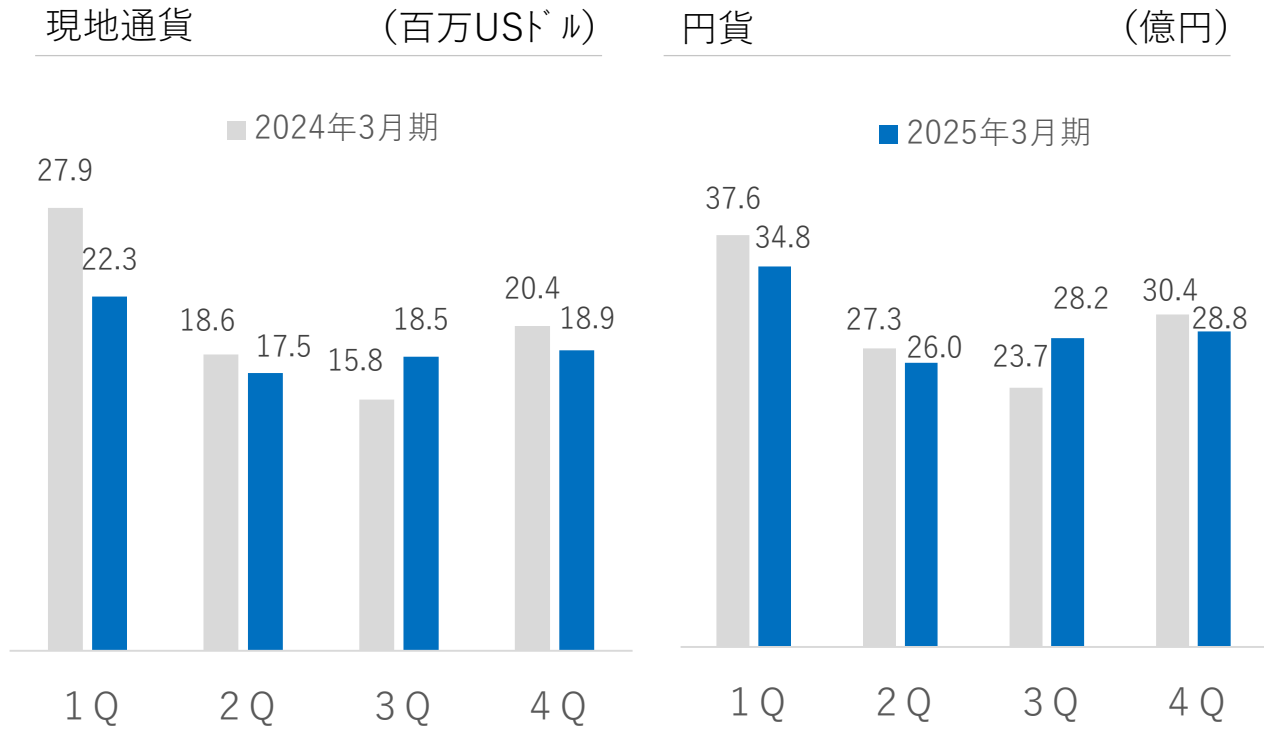
新築 0.3%減

△新築着工数の減少。

リニューアル 8.1%減

△前期の商品供給の安定化に伴う
一時的な売上増加に対する反動
減。

◎ 病院、施設等で「見守り支援」
ニーズが高水準を維持。

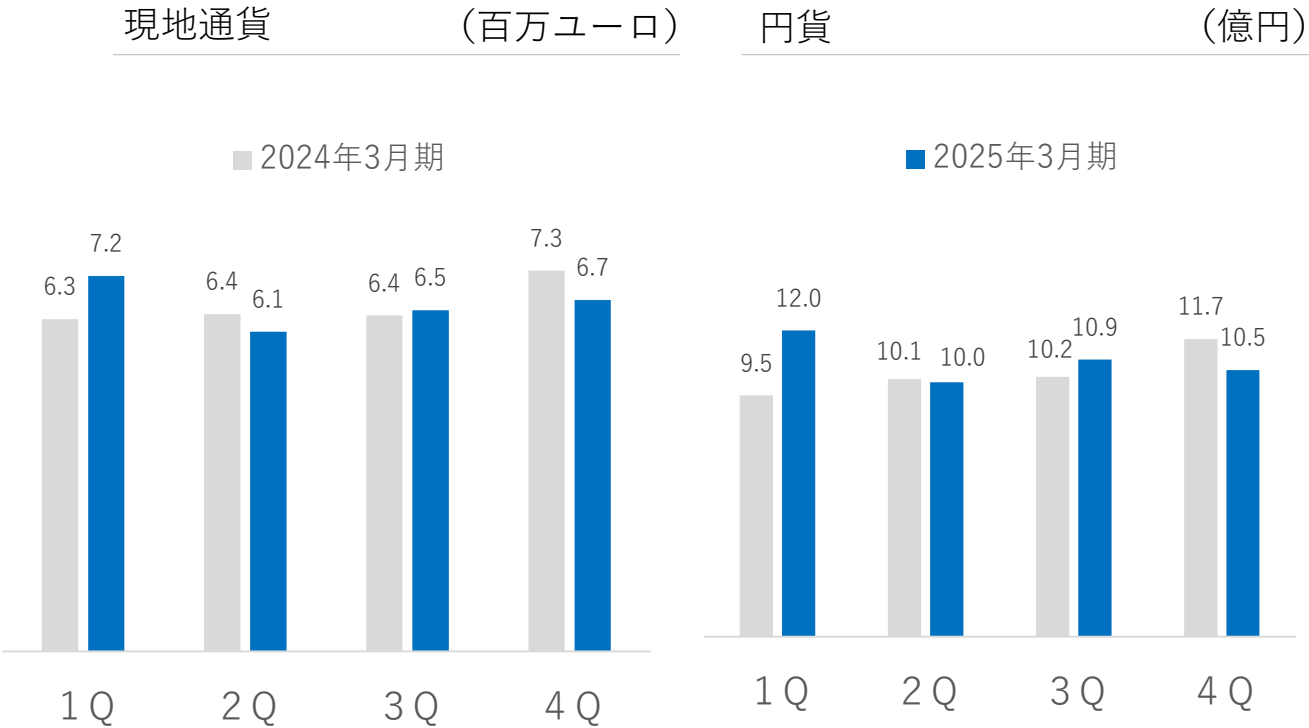


	2024年 3月期	2025年 3月期	増減額	増減率
現地通貨 (百万USD [*] 円)	82.2	77.1	▲5.0	▲6.2%
円 貨 (億円)	118.9	117.7	▲1.2	▲1.0%

前期比

現地通貨 6.2%減
円貨 1.0%減

- △ 集合住宅市場の中心である東海岸都市部において、競合企業からの価格攻勢が激化し販売が苦戦。
- △ 前期のバックオーダー解消による売上増加に対する反動減。



	2024年 3月期	2025年 3月期	増減額	増減率
現地通貨 (百万ユーロ)	26.4	26.4	0.0	0.1%
円 貨 (億円)	41.4	43.3	1.8	4.5%

前期比

現地通貨 0.1%増
円貨 4.5%増

- ◎ 業務市場に向けたソリューション提案を強化したことが奏功し、IPネットワーク対応インターホンシステムの販売が好調に推移。
- ◎ 欧州経済の停滞は緩やかな回復基調。
- ✕ 戸建住宅市場の新築着工戸数が大幅に減少し、主力テレビドアホンの販売が減少。

(億円)



◎ 集合リニューアルの売上が好調などにより売上高が大幅に増加し、売上総利益が大幅に増加

✕ 研究開発費の増加等により、経費が大幅に増加

本日の内容

01

2025年3月期

決算ハイライト

02

2026年3月期

業績の見通し

03

AIPHONE Vision 2025

第8次中期経営計画の進捗状況

米国関税の影響は2026年3月期計画には織り込んでおりません。

(億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 計画	前期比 増減率
売上高	633.1	654.0	3.3%
営業利益 (売上高営業利益率)	38.1 (6.0%)	45.0 (6.9%)	18.0%
経常利益	41.6	50.0	20.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	36.1	37.0	2.2%
為替レート (円)	USD	152.57	148.00
	EUR	163.74	162.00
	THB	4.38	4.30

USD：アメリカ合衆国ドル、EUR：ユーロ、THB：タイバーツ

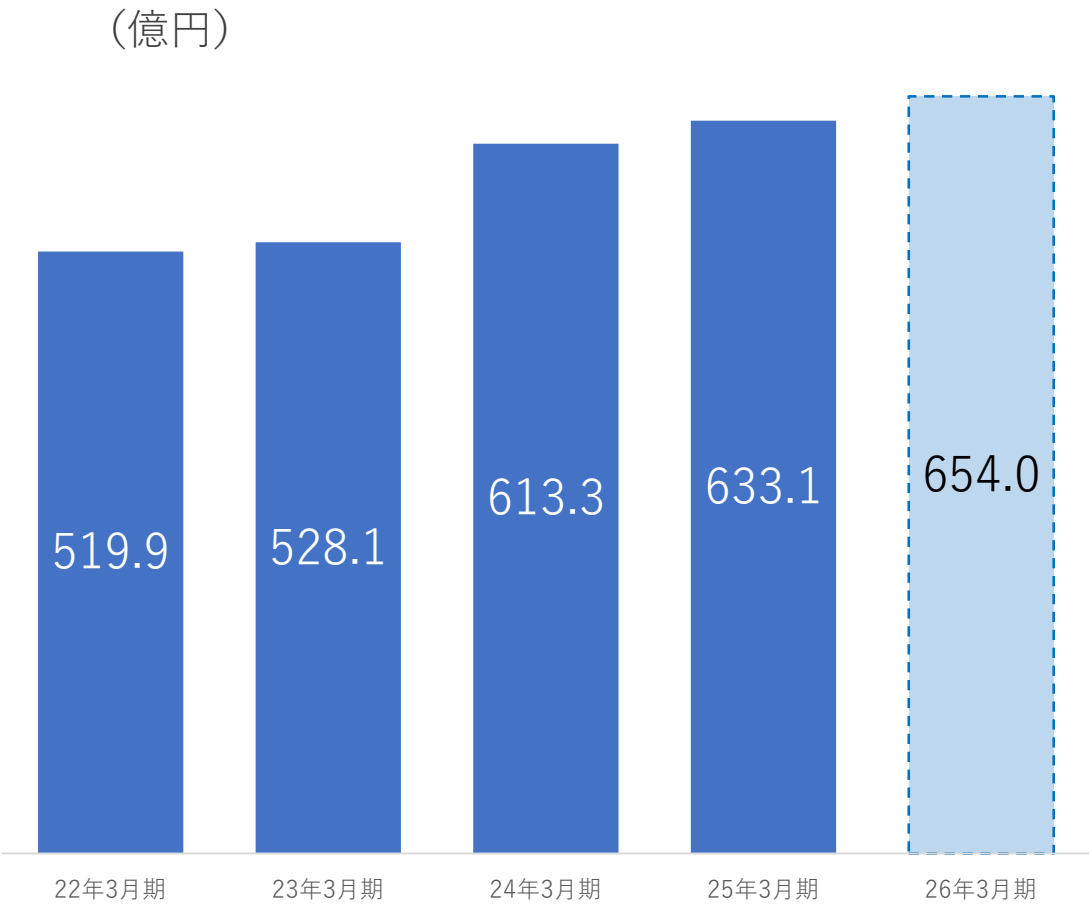
売上高

- 国内 セキュリティニーズを背景にリニューアル売上拡大を狙う。
- 海外 需要の多いIPネットワーク対応商品の販売拡大を狙う。

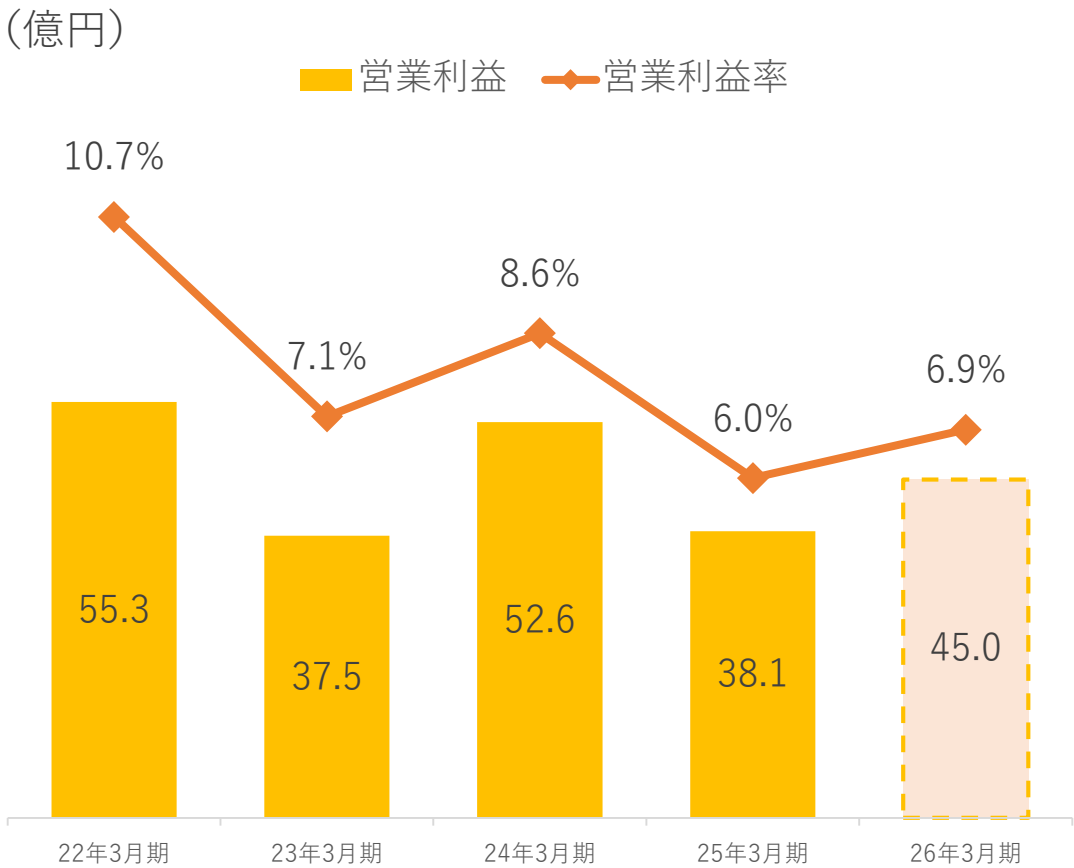
利益

- 国内外の市場動向等を勘案しつつ、適宜価格改定を実施。
- 研究開発費や賃金ベースアップ等による経費が増加。

売上高



営業利益



パビット Pabbit とは？



エントランスインターホンで
伝票番号を認証

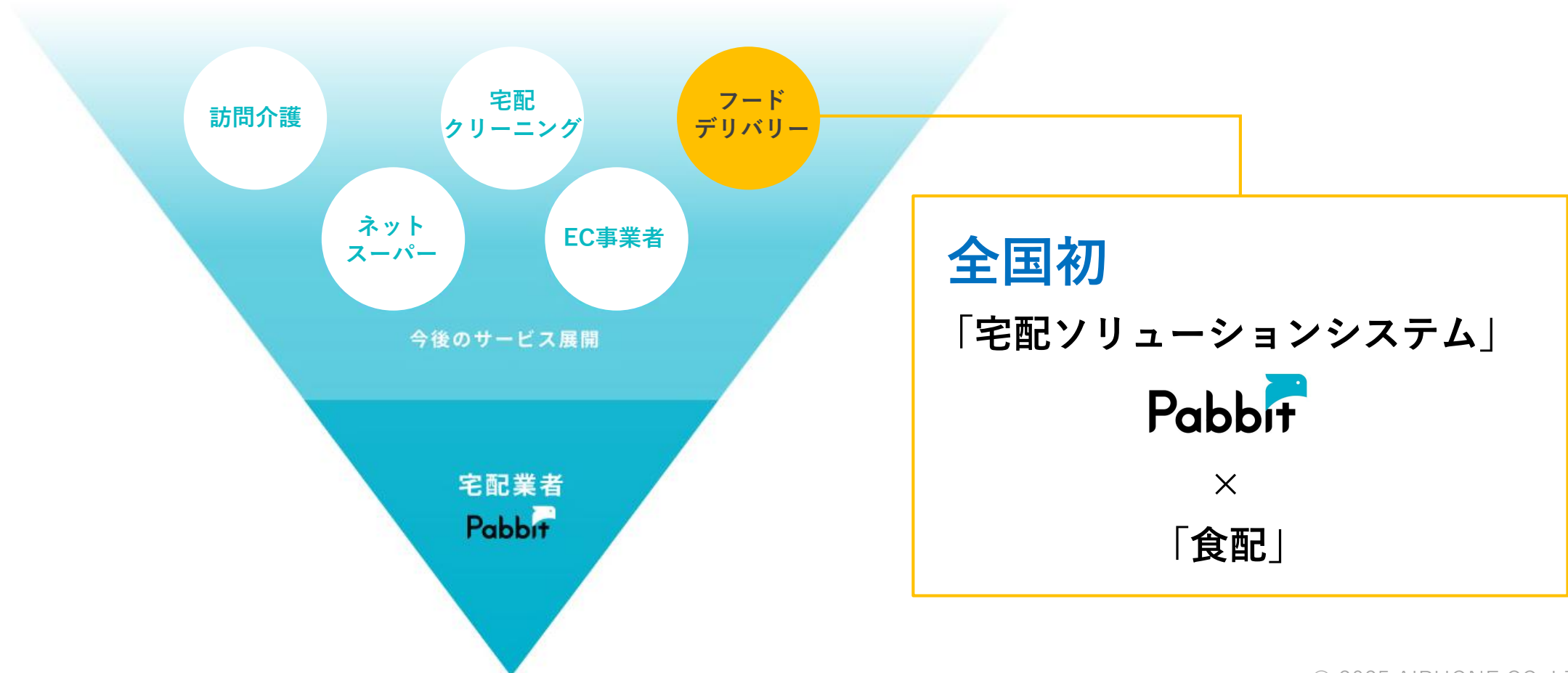


住戸前の宅配ボックスや
置き配用バッグに配達



サービスの方向性

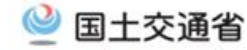
宅配便以外の、さまざまな生活パートナーと連携し、
より魅力的なサービスへと展開を予定



サービスの方向性

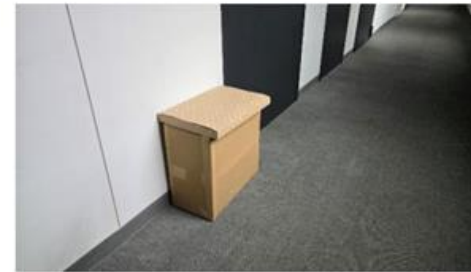
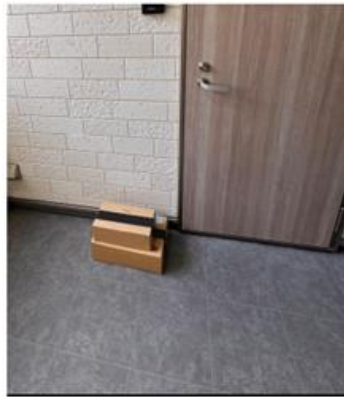
国土交通省「マンションにおける置き配の普及促進に向けた取組みのポイントについて」

消防法の規定に抵触するものではないと一般的に考えられる置き配の例

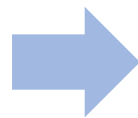


別添2

- 消防法（昭和23年法律第186号）に基づき、廊下、階段、避難口等に避難上の支障となるような状態での宅配物の放置は禁止されている。
- 当該規定の適否については、個別の廊下、階段等の幅や形状等に応じて判断することになるが、例えば以下のように、宅配物などで避難の支障とならない少量又は小規模の私物を暫定的に置く場合は、当該規定に抵触するものではないと一般的に考えられる。



働きやすい、医療・介護現場をつくるために
みんなつながる、最もシンプルな解説策



毎日の忙しい医療・介護現場をつなぐ、
たった1つのアドレス表



継続的な取り組み（CareRings Contact）

〔背景〕

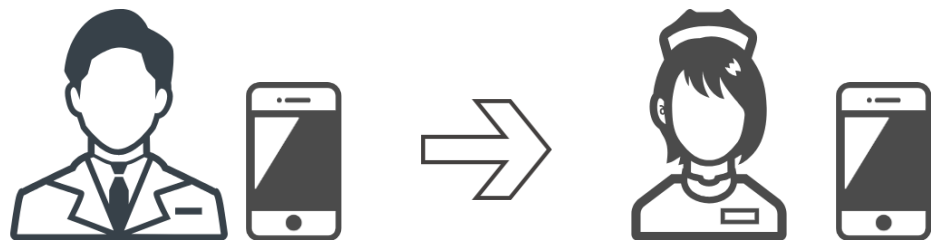
- ・医師の働き方改革（看護師の役割拡大）
- ・医師の代わりに特定行為を行える看護師の増加

〔課題〕

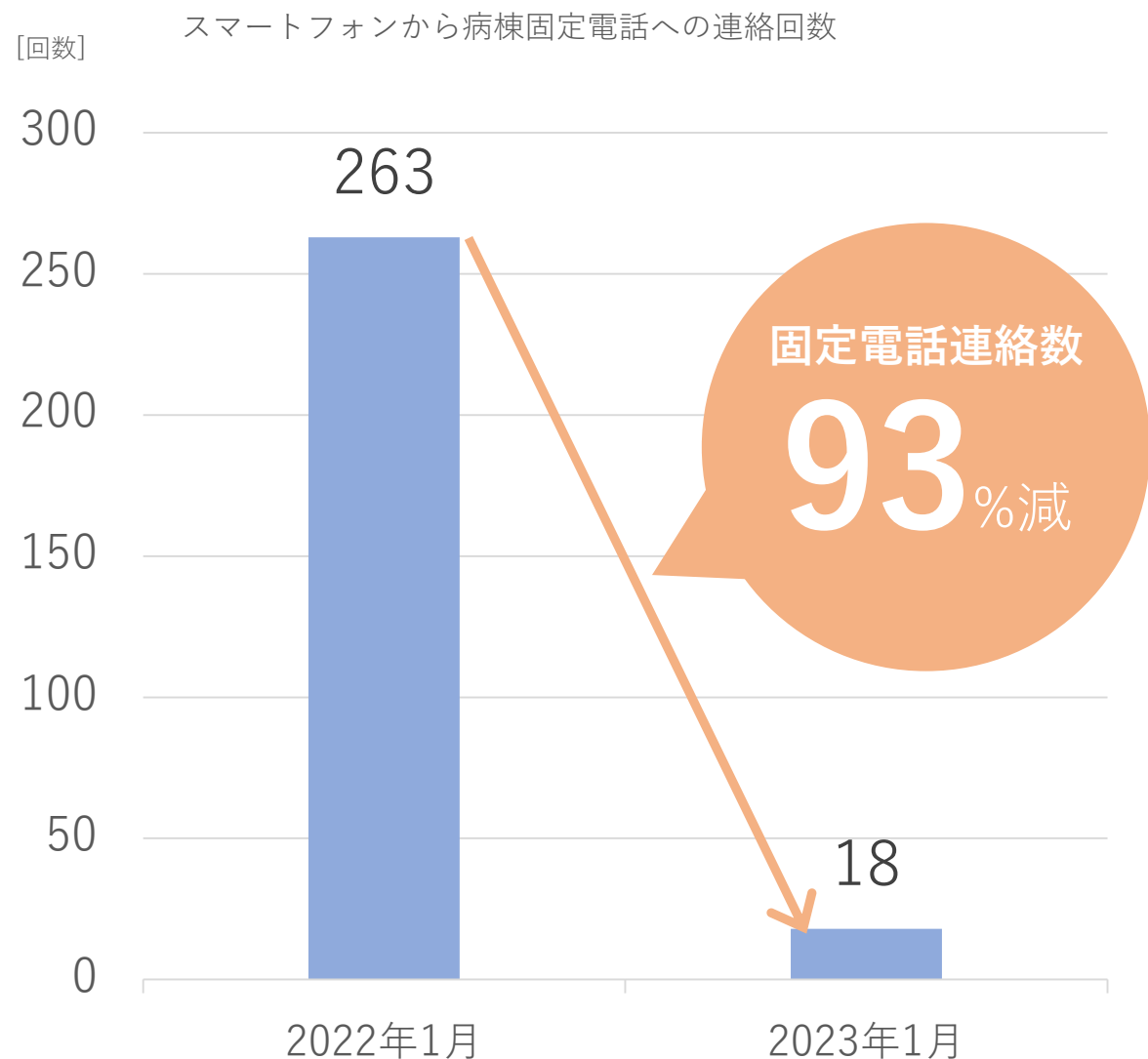
医師と看護師のコミュニケーション機会が増加したが、
今、勤務中の特定行為ができる看護師が分からない

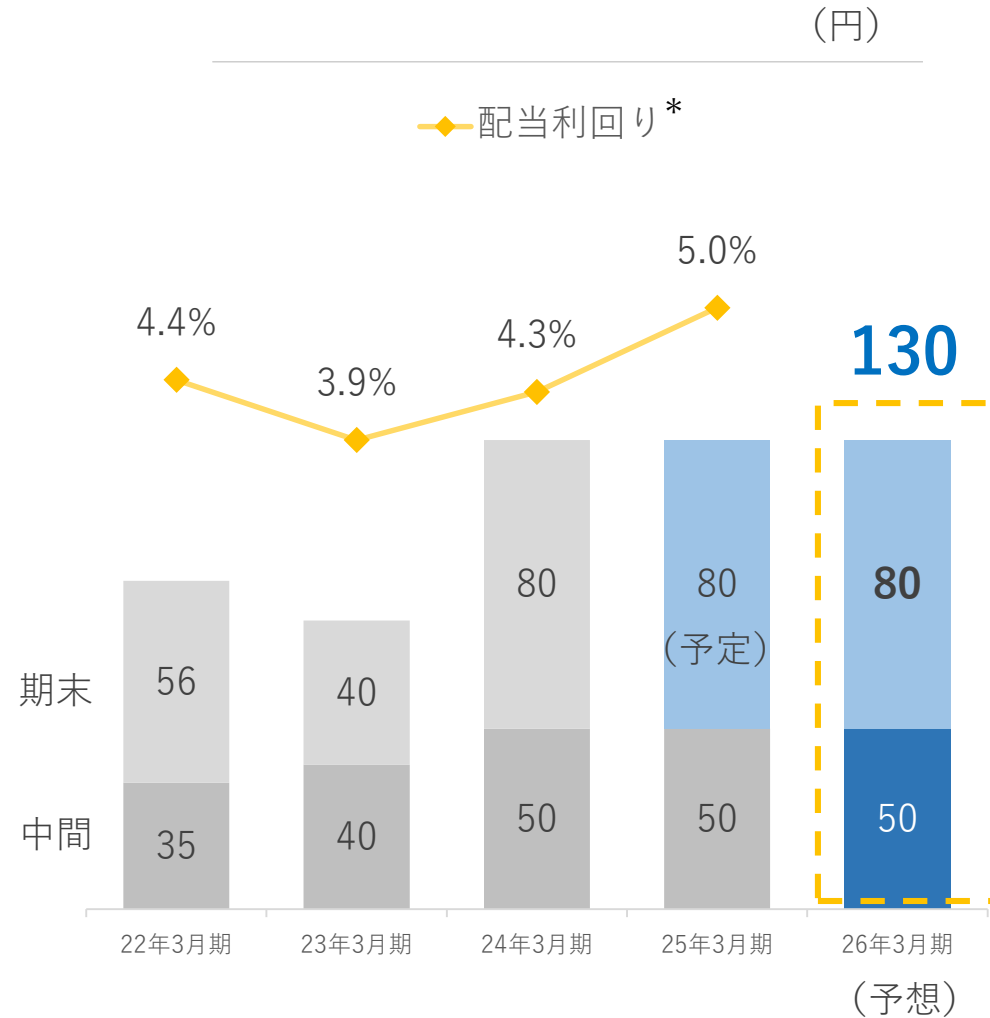


CareRings Contactなら



当日の勤務状況と属性情報がスマートフォンに表示される
ため誰でも簡単に直接呼出が可能（タスクシフトを支援）





* 各年度3月末時点の株価より算出

中期方針

基本方針である配当性向35%をベースに、年間で1株当たり80円を下限に配当することを念頭に、さらに3期累計で15億円程度の追加還元を実行。

年間配当

130円 (予想)

1株あたり年間配当金額100円に
中期方針による追加還元30円を加えた予想金額

本日の内容

01

2025年3月期

決算ハイライト

02

2026年3月期

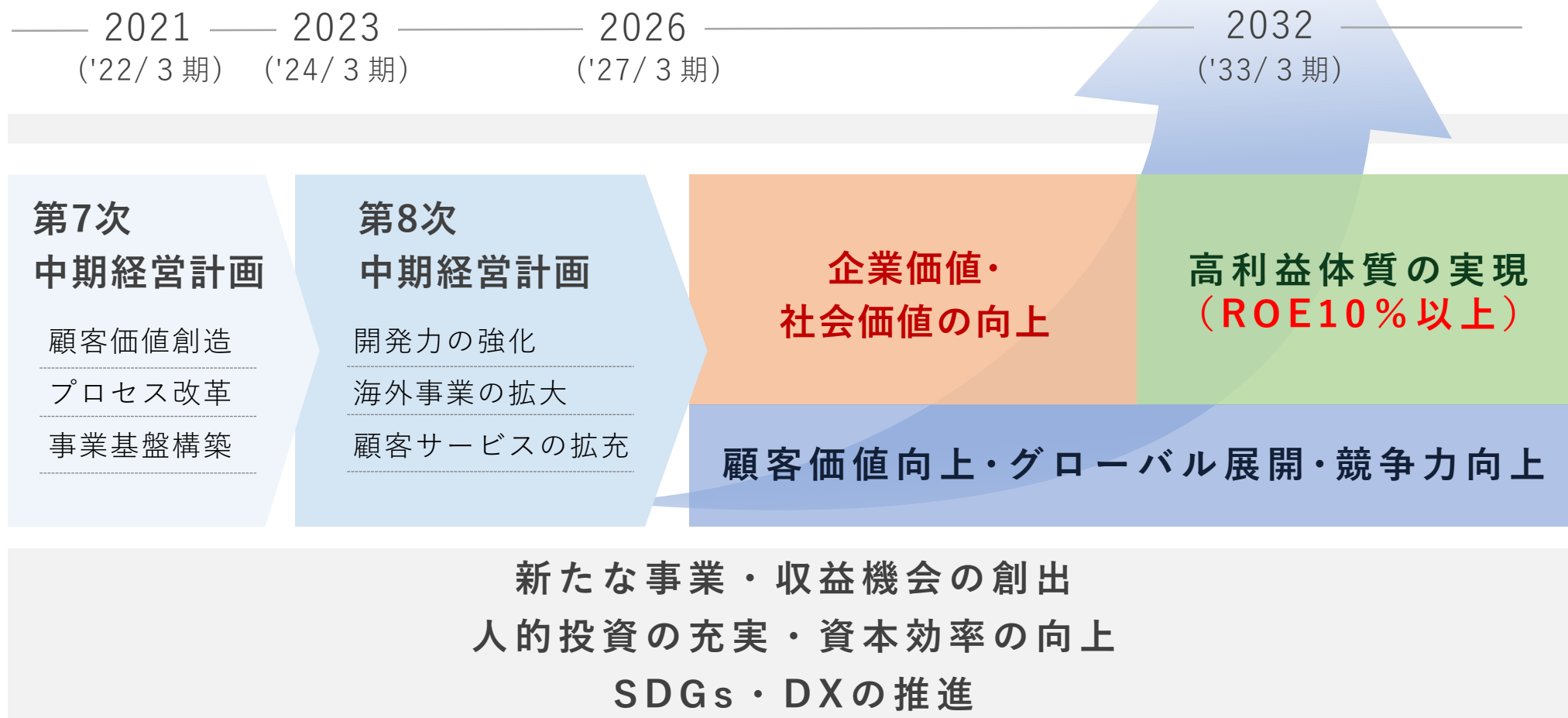
業績の見通し

03

AIPHONE Vision 2025

第8次中期経営計画の進捗状況

■ 高利益体質（ROE10%以上）の実現を目指す



顧客と社会の期待に応え、 発展し続ける企業体質をつくりあげる

直接的な顧客に加え、ESGやSDGsといった社会からの期待にも応えていきます。
また、本中計期間においては3年間での発展だけを目指すのではなく、
5年後、10年後も発展し続けられる強靱な企業体質をつくりあげていきます。

アイホンの企業価値・社会価値

市場への顧客価値の向上

国内顧客サービスの拡充

海外事業の拡大[3極体制化]

開発力の強化

SDGs推進

人材投資

DX推進

直近4年間でソフトウェア開発会社3社をM&Aにより完全子会社化。



開発力を強化するためソフトウェア開発の子会社をM&A

2026年 3 月期

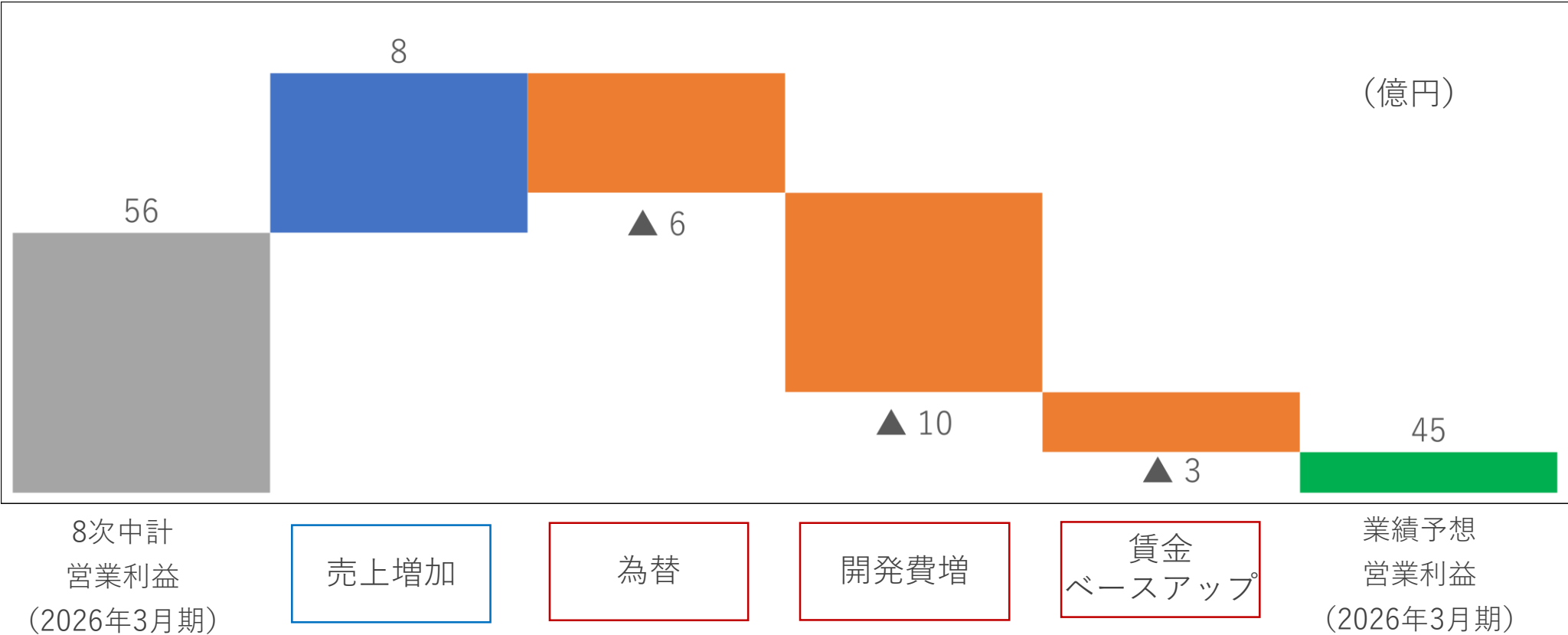
(2025年 5 月 8 日発表)

修正計画

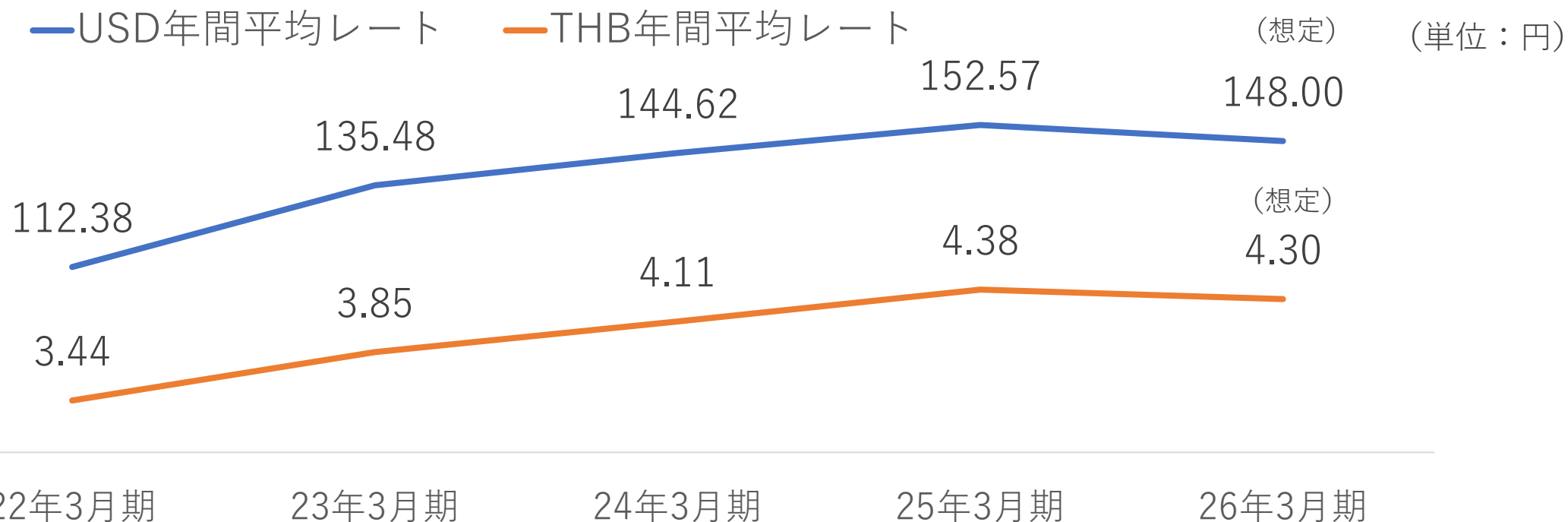
業績予想

①	営 業 利 益	56 億円	▶	45 億円
②	連 結 売 上 高 営 業 利 益 高 率	8.8 %	▶	6.9 %
③	連 結 売 上 高	635 億円	▶	654 億円
④	R O E	6.4 %	▶	5.2 %

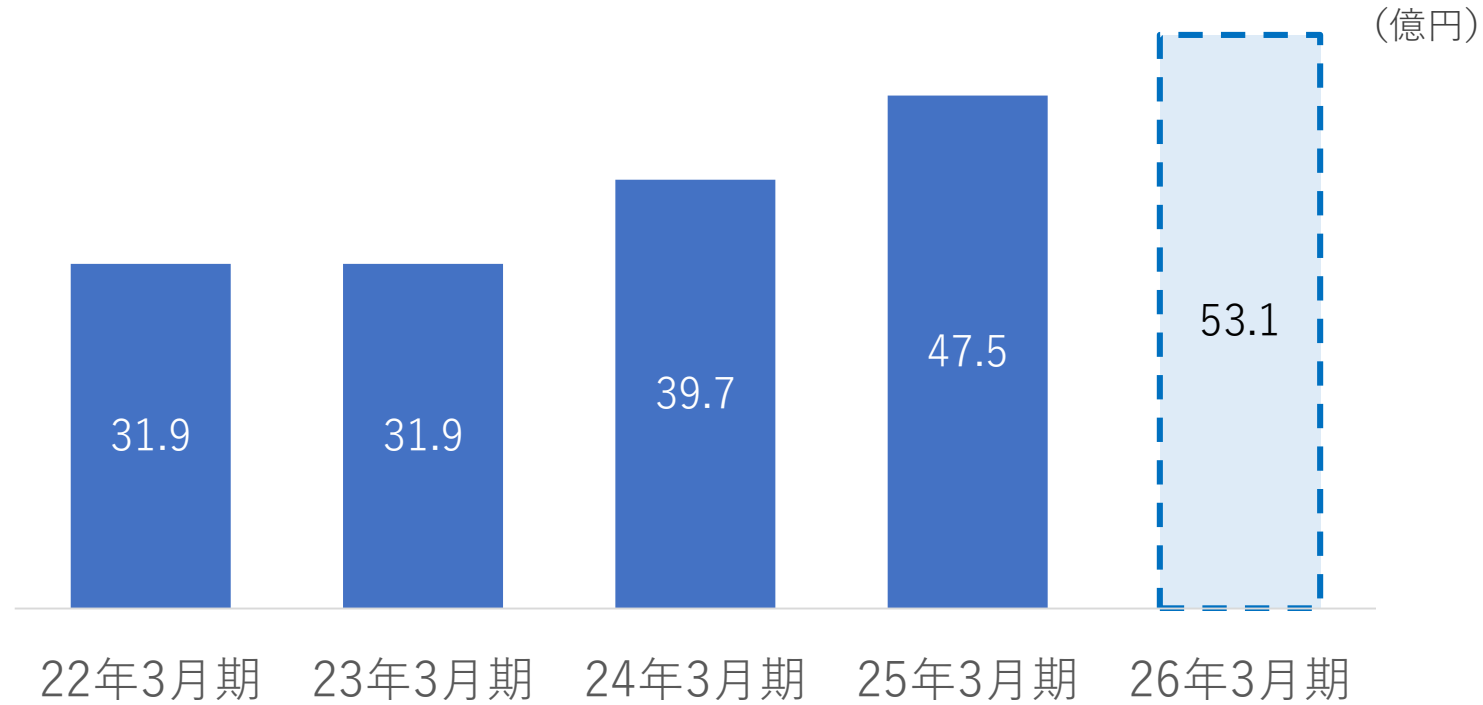
中期経計と次期業績予想の営業利益差異（2026年3月期）



- ◎ 売上高が大幅に増加し、売上総利益が大幅に増加
- ✕ 為替の影響や研究開発費の増加等による経費が大幅に増加



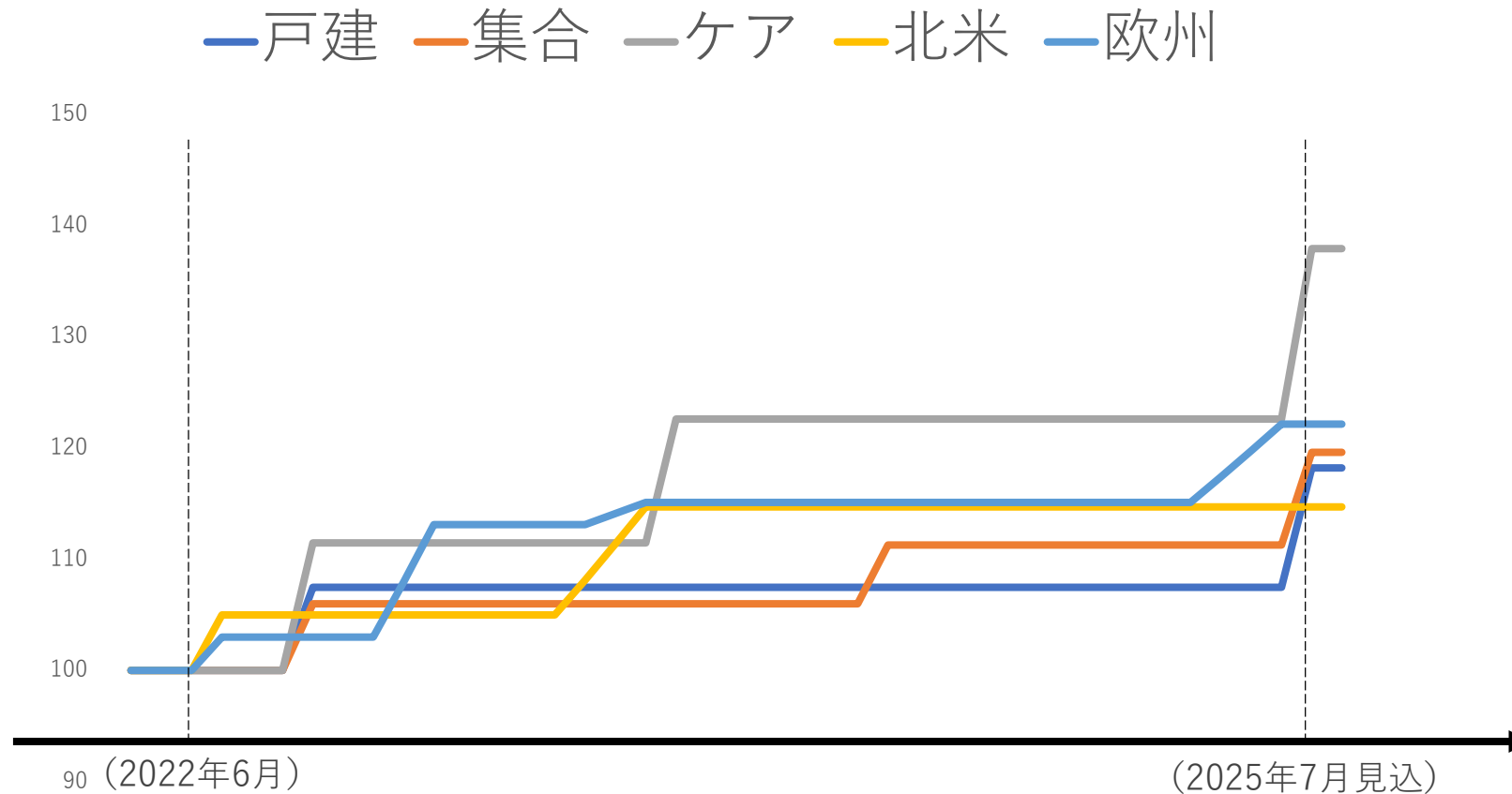
為替変動が当社に及ぼす影響はUSDやTHBに対しては円高になれば営業利益を押し上げる効果あり
 為替感応度は、1USD1円の円高に動くと営業利益2～3千万円増加、
 1THB0.01円の円高に動くと営業利益1～2千万円増加



研究開発費は増加傾向にある。

26年3月期は、大型開発案件が複数重なったため、研究開発コストが増加している。

2022年6月を基準（100）とした場合の、市場別の価格改定イメージ



2022年7月より各市場で価格改定を行っている。

2025年7月からも国内で価格改定を行う予定がある。



本資料に掲載されております業績予想や将来予想は、現時点において入手可能な情報に基づき弊社が判断して予想したものであり、実際の業績は今後様々な要因の変化により予想とは異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

アイホン株式会社

<https://www.aiphone.co.jp/ir/>

